

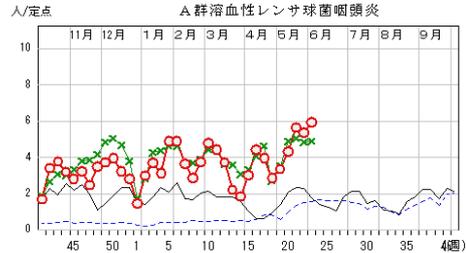
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第23週 2024年6月3日（月）～ 2024年6月9日（日） 2024年6月13日作成

☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

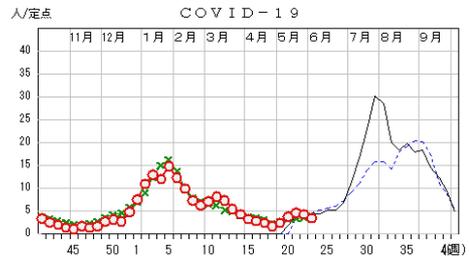
（1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第23週の報告数は261人で、前週より25人多く、定点当たりの報告数は5.93であった。
 年齢別では、10～14歳（49人）、4歳（33人）、5歳（33人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（21.40）、西彼保健所（7.75）、五島保健所（7.00）であった。



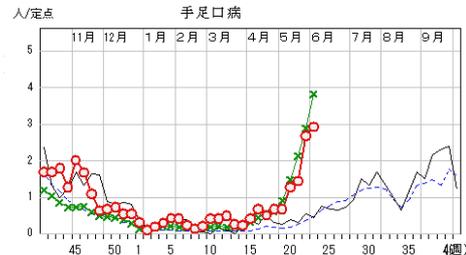
（2）新型コロナウイルス感染症

第23週の報告数は239人で、前週より63人少なく、定点当たりの報告数は3.41であった。
 年齢別では、50～59歳（35人）、40～49歳（34人）、60～69歳（31人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（8.67）、壱岐保健所（8.33）であった。



（3）手足口病

第23週の報告数は129人で、前週より11人多く、定点当たりの報告数は2.93であった。
 年齢別では、1歳（51人）、2歳（29人）、1歳未満（19人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（5.43）、西彼保健所（4.00）、長崎市保健所（3.60）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第23週の報告数は261人で、前週より25人多く、定点当たりの報告数は5.93でした。地区別にみると県南地区（21.40）、西彼地区（7.75）、五島地区（7.00）は他の地区より多く、特に県南地区は警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第23週の報告数は239人で、前週より63人少なく、定点当たり報告数は3.41でした。地区別にみると、対馬地区（8.67）、壱岐地区（8.33）は他の地区より多くなっています。県全体では2週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【手足口病】

第23週の報告数は129人で、前週より11人多く、定点当たり報告数は2.93でした。地区別では、県央地区（5.43）、西彼地区（4.00）、長崎地区（3.60）は、他の地区より多く、県央地区は警戒開始基準値「5.0」を超えています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

SFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。重症化すると死亡することもあり、致死率は10～30%といわれています。

県内では**2024年第23週までに11件**の報告があり、例年の同時期より多くなっています。2019年以降に報告された患者は、40～90代で、70代と80代で75%を占めています。

近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

発生状況、感染対策について、長崎県感染症情報センターホームページ内「[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）](#)」にも掲載しています。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (5)	6 (3)	6 (1)	13 (4)	13 (7)	11
日本紅斑熱	15 (3)	18 (1)	28 (8)	22 (3)	14 (5)	6
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (1)	7 (0)	15 (3)	1

※（ ）は第23週までの発生件数

長崎県におけるSFTSの診断週別累積患者報告数



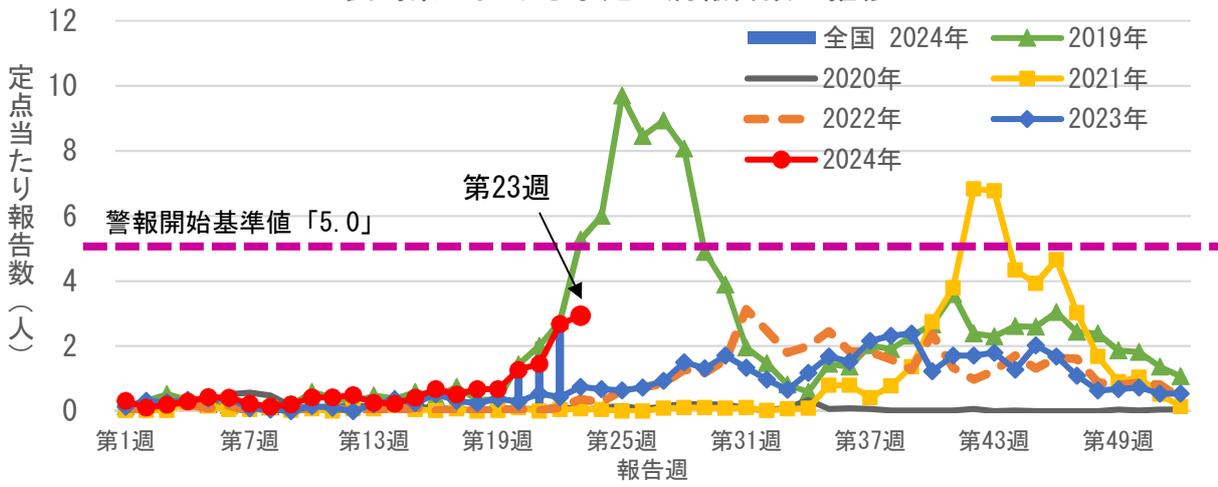
☆トピックス：手足口病に注意しましょう

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

例年6～7月に流行する傾向にあります。長崎県の第23週の定点当たり報告数は「2.93」で4週続けて増加しています。地区別では、県央地区(5.43)、西彼地区(4.00)、長崎地区(3.60)が多く、県央地区は警報開始基準値「5.0」を超えています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



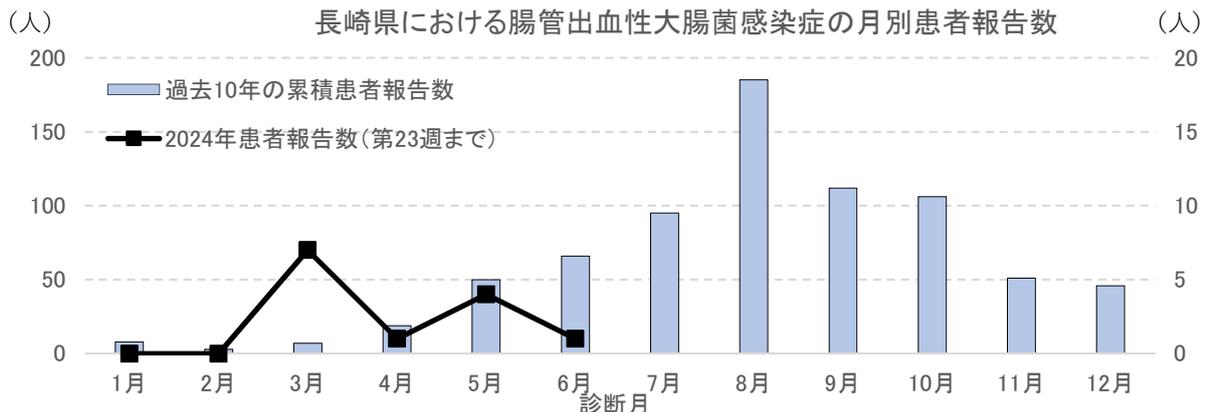
☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。

主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を起し、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

例年5月ごろから報告数が増加する傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（80代以上・2名）
 無症状病原体保有者 男性（40代・1名） 女性（30代・1名）

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（10歳未満・1名）

4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（80代以上・1名）

5類感染症（全数把握対象）：アメーバ赤痢 患者 男性（60代・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（10歳未満・1名）
 梅毒 患者 女性（20代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第18~23週、4/29~6/9)

疾患名	定点当たり患者数					
	18週	19週	20週	21週	22週	23週
	4/29~	5/6~	5/13~	5/20~	5/27~	6/3~
インフルエンザ	0.53	0.30	0.17	0.16	0.29	0.11
新型コロナウイルス感染症	1.69	2.43	3.74	4.59	4.31	3.41
RSウイルス感染症	0.43	0.77	1.11	1.64	1.25	1.82
咽頭結膜熱	0.84	1.02	0.95	0.70	1.70	1.05
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.86	3.36	4.32	5.66	5.36	5.93
感染性胃腸炎	1.23	2.02	3.34	3.68	2.86	2.43
水痘	0.02	0.18	0.09	0.30	0.14	0.27
手足口病	0.68	0.68	1.27	1.45	2.68	2.93
伝染性紅斑（リンゴ病）						0.02
突発性発しん	0.18	0.36	0.50	0.25	0.34	0.30
ヘルパンギーナ		0.02	0.16	0.18	0.25	0.55
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.02	0.05	0.09	0.02
急性出血性結膜炎		0.13				
流行性角結膜炎	0.38	0.63	0.38	0.25		0.50
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.08	0.17	0.08	0.08
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.08	

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第23週、6/3~6/9) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.11	0.18	0.12		0.17	0.27					
新型コロナウイルス感染症	3.41	3.09	3.41	8.33	1.17	2.45	4.50	1.00	2.00	4.67	8.67
RSウイルス感染症	1.82	1.17	2.10		2.25	0.57	3.00	8.00			
咽頭結膜熱	1.05	0.50	1.50		1.25	1.00	0.40	1.67	2.33		1.00
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	5.93	4.00	1.40	3.50	7.75	6.29	21.40	2.33	7.00		3.00
感染性胃腸炎	2.43	6.33	1.50		1.75	4.00	1.00	4.67			
水痘	0.27	0.17	0.60		0.50	0.14	0.20	0.33			
手足口病	2.93	3.00	3.60	1.50	4.00	5.43	0.40	3.00	2.33		
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02		0.10								
突発性発しん	0.30	0.83	0.20		0.50	0.14		0.67			0.50
ヘルパンギーナ	0.55	0.67	1.50			0.57	0.20				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.10								
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.50						4.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08	1.00									
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											